

施策 No.	政策名	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり	主管課	健康推進課	主管課長名	広瀬智美
1-2	施策名	健康づくりの推進	関係課	国保年金課、高齢福祉課、児童福祉課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	市民	①桜川市人口	見込値	人		41,278	41,008	40,738	40,467	40,197
実績値						41,278	40,483			
見込値										
見込値										
自ら健康づくりに取り組み、元気に暮らしている		①健康で元気に暮らしていると思う市民の割合	目標値	%		75.0	76.0	77.0	78.0	79.0
			実績値			75.4	77.3			
		②特定健診受診率	目標値	%		37.0	38.0	39.0	40.0	41.0
			実績値			37.4	38.2			
		③乳幼児健診受診率	目標値	%		95.4	96.8	97.0	97.2	97.4
			実績値			96.6	96.0			
目標値										
実績値										

  

成果指標設定の考え方	①「健康で元気に暮らしていると思う」市民の割合は、市民一人ひとりが主体となった健康に対する意識の向上と健康づくりへの取り組み支援の評価と考える。②特定健診受診率は、自らの健康管づくりの意識向上や健康づくり活動の定着化及び受診環境の整備や拡充の指標となると考える。③乳幼児健診受診率は健康行動の指標となると考える。
成果指標の把握方法と算定式等	①健康で元気に暮らしていると思う市民の割合は、市民アンケートより求める。②特定健診受診率は、法定報告より求める。③乳幼児健診受診率は母子保健報告により求める。

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	①健康で元気に暮らしている市民の割合はH30年度77.3%であり、H29年度75.4%、H28年度74.2%、H26年度75.1%と増加している。運動やスポーツをほぼ毎日行っている人はH28年度15.2%からH30年度18.6%と増加し、ほとんど行っていない人はH26年度より4.5%減少した。また、市民が健康づくりに取り組んでいる内容は、「朝食をほぼ毎日食べている」が73.7%と最も高く、「定期的に健康診断を受けている」は52.7%と年々増加している。市民個々の意識が向上し健康づくりの取り組みが実践された成果と思われる。 ②特定健診の受診率はH30年度38.2%で、H28年度37.1%、H29年度37.4%と微増している。市民アンケートでは、「日頃自分の健康のために心がけている人」がH28年度92.6%、H29年度93%、H30年度93.7%と微増している。市民の①のような健康づくりへの意識の向上や各種健診の機会拡充の取り組みによるものと思われる。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①健康で元気に暮らしている市民の割合は、目標に達した。 ②特定健診の受診率は、目標値に達した。 ③乳幼児健診の受診率は、目標値を下回った。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
H30年度成果があった事業は、⑤母子訪問事業⑥乳幼児健康診査事業⑩乳幼児育児相談事業である。 ・母子訪問事業では、赤ちゃん全戸訪問にて、産後の不安や育児不安を軽減することができ訪問により育児不安が軽減されたと答えた保護者は平成29年度91.1%で平成30年度95.0%であった。 ・乳幼児健康診査事業では、成長発達の著しい乳幼児の健康状態を確認することで保護者が安心して育児ができ、また子育て相談時子育ての不安や児の発達・育児に不安を持つ保護者は継続した支援が出来る様を実施している。 ・乳幼児育児相談事業では、児の成長発達の確認や子育ての不安等の軽減に努め、身近に相談できる市の窓口であることを認識してもらった。	・自ら健康づくりに取り組めるように健康づくり活動の普及啓発やその活動の支援を行う。生活習慣病やがんの発生のリスク要因となる喫煙や飲酒に関する項目について悪化傾向にあるため、更なる健康づくりの支援が必要となる。加えて、疾病の早期発見・早期治療や重症化予防のため健診体制の整備や機会拡充を図り受診率向上を目指す。また、健康づくり活動の指針となる「第2次桜川市きらり健康プラン」に盛り込み令和元年度に策定する。 ・母子保健においては、令和元年10月に子育て世代包括支援センターを設置し、育児の孤立や虐待防止のために、切れ目のない支援体制づくりを行うとともに、引き続き乳幼児健診などの未受診者対策、健診後の経過観察や療育支援、また育児不安や負担を軽減できるよう育児相談や訪問を実施する。